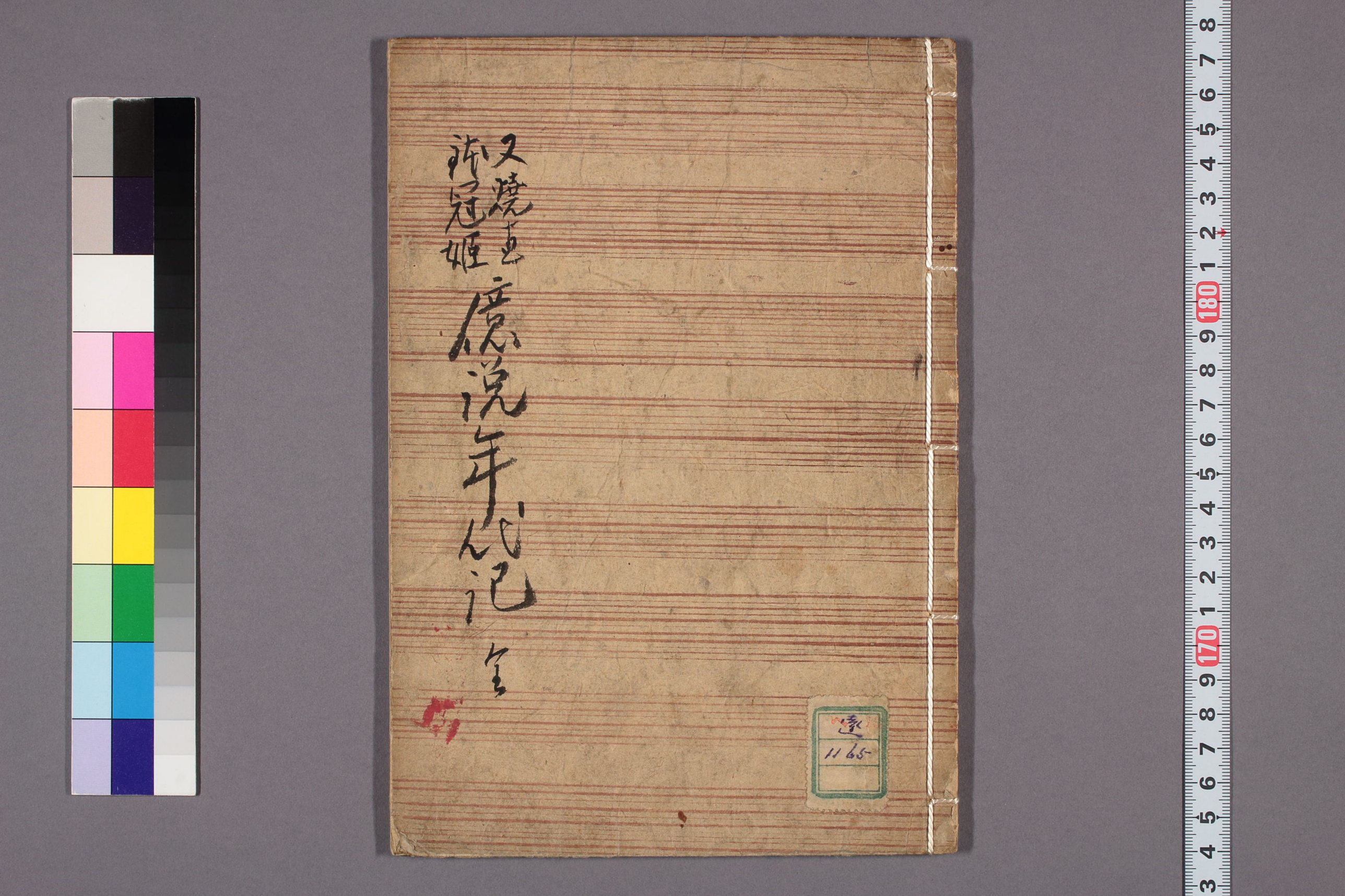


又蔵書
祇冠姫

廣説年代記

全

遠
1165

門 ヘ 13
時 1165
巻

宮内省
圖書寮

又焼亡
陳冠姫 稗史億説年代記

稗史家不重宝記

江戸地番問屋印

式亭三馬編纂

ことし　しちよろづ

▲通ほたて町	○通油町	○通油町	▲かや町
うろこ形や 孫兵五	村 村田 次兵五	岩 岩戸屋 源八	
▲大てん苛	○通油町	○よこ山町	
山 山本 九右ゑ	蔦や 重良	岩 岩戸屋 喜こう	
▲通油町	○通油町	○通ほたて町	
丸小 丸小や 兵五	つたや 喜左ゑ	吉 吉榎本 吉兵五	
▲通油町	▲山下町	○馬喰町	
甚 丸や 玄八	菊 菊井 次介	イ 山口屋 忠介	
▲通油町	▲馬喰町	○馬喰町	
松 松村 弥兵五	太 太田 太兵五	西 西お 与八	
○堂ヶ出 版の印	○さしとしやの数をしる歌	○大木のけへぎときてふとこ	○神田泉市
▲竹をしき 相休	「つたたや皇市もれ田山ゑ屋 岩戸ゑのもと西八村宮」	てんと中とひの根じやふてうこい	泉市
家と 浅れる は跡より加 ふべし		△ちりふぶや きてをまたは可ん己やナントテ子供 しもがてんか	
			▲大傳馬町
			米 大米市
			▲通ほたて町
			奥村 深兵
			十 十町 西宮 村六

此ころ江戸つけ年代記ハ名ゝ書して集ることしかしちゝ初中ぐんのつゞちハ千数まあるりて精たるゆゑ近くたらへハ北尾ゑゑ清満清経と図ゆを用ゐし二ぐん年の今にいたるあしだ絵の書きしく芝ゑ近くたらへハ北尾ゑゑ清満清経と図ゆを用ゐし二ぐん年の今にいたるあしだ絵の書き意月ゝまるけり年ゝうつりそのの餘の画工ハ又ゝくのとしさるようてつふにせず狂ゝるゝしとは来ゝの増補ゝ全をまろべ

戯作者名寄

○休の印　●故人の印

●和祥　●太阿　●文子　●蓬来人　●田蓋信　●通竹太　●芝全交　●櫻川崖楽　●十之甘交

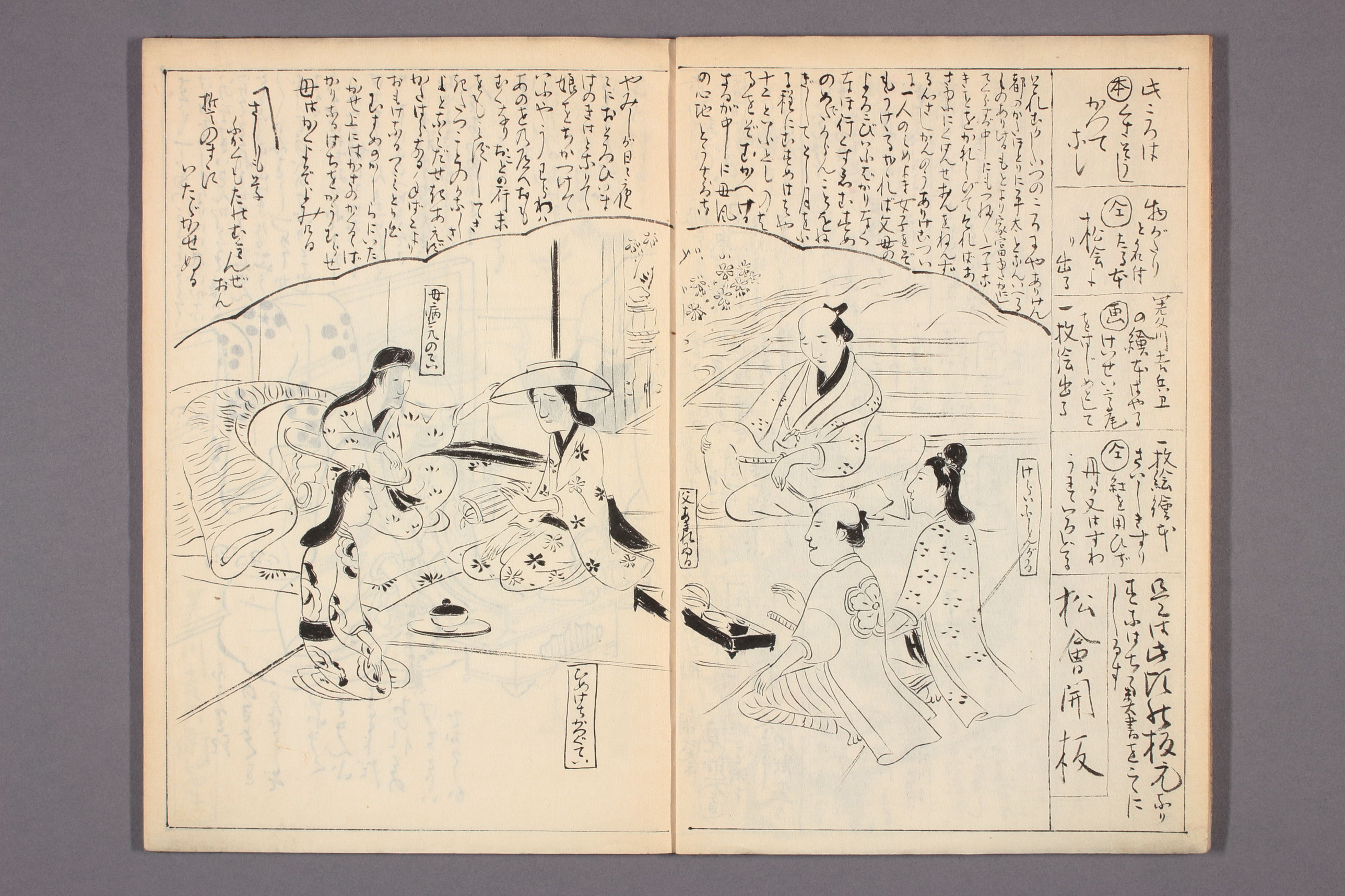
○嘉三三　○万象亭　○唐来三和　○徳川春町　○可竹太　○錦人信普　○七珍万宝

○朋誠堂喜三二　○通竹太　○錦人　○森羅万象　○春橋喜三二

○絵師画工名盡

○絵師画工名盡

○隅川一竜斎　○豊春　○歌川国芳　○歌川国貞　○歌川哮雪房信　○春町　○馬琴　○南仙笑楚満人　○鳥居清信　○清倍　○清満　○清長　○清経　○清廣　○清満　○北尾重政　○紅翠斎　○花鳥斎　○春好　○春常　○勝川春英　○勝川春章　○勝川旭翠春章　○春湖　○春山　○春琳斎　○蘭徳斎　○菱川吉兵衛　○菱川政美　○鳥居清長　○鳥居清満　○鳥居清経　○鳥居清廣　○鳥居清信　○鳥居清倍　○歌川豊国　○歌川豊広　○歌川豊春　○歌川豊国　○歌川豊広　○歌川豊春　○歌川豊国　○歌川豊広　○歌川豊春


ちゃうやありけん
父あまれかる
けらいふしんする
ひとはは板元ふりをふけちる美書をうてにしるす
松會開板
母病気のこと
ひとけちかぐてい

さてもしてあのうくとよそそて
けはむふーくなりにければかふ
いのちげきいとんかうそを娘ハ
つけてまろれをかちーみぜん
ぐをきてぐぎふげきくるがやう
くにんをしづめてかふ
ふーとものべのけぶりとふし
てくる
ろうをはかたみのつふをあー
ろえんと娘にきせおくーる
けちをとーんとふけれども
かーぐにもいつけきてさ
ゝにとれずちて大きに
おどろきちかーしき
人をあつめてさす
くーてをつくせども
はふしぐれ
ぼむすめのあげき
いやさきりはくに
はまろくちみ
ふりぐ
かうをれ
のきどくを
ろかさうぞ
のふけく
きすんぐ
ぎゝとだ
おのれあ
けちをい
でおろうか
今かあろうと
あるはかあさ
ゝとそをた
ゝそ
ふげきけ
しば
きくゝつけしる
につけちはか
めしあはは
なかりんろ
れはかちは
ふぎ木
こゝあ
ひめ
あげく
ゝや
美久川土九兵衛作

赤本 表紙一面の模様だけ絵を紙を黄色にそめる

赤本の中たいに自分の表紙をけるときに表紙に繪を書くこと

とりあつかひと云ものは大きにちがひ

黒本 つぐそほ倍おこはぬる

黒表紙に赤の外題をけりて黒本と称す

黒本の中を俗に色表紙たんざくと云けり

地本の中は右丈夫と云人赤本を作る

作者 作者の名を出さずに子供しゆがんの紀人は人よりけりまる

かてゝ月をすごすれまるを紀人ゝ
よりあつまりいつまで男
のひとりずゝこまもす
むまゝ〜そまくめにま
かせのちゝつををむ
かへるるそれに
いろりて姫い
うまれもつぬ
あげつるたいを
きゆふ
うてゝこて
あけれム
しかけ
がきけは
つゞ〜とらゆがかゝわるをう
とゝまくみておつとのまゝみりしん

うとゝまゝいあまではあ
ごくつぶ〜といおのれ
がとしじやあのうで
うちまてゝまゝすそ
けちいまく〜しい

きんぎやもの人とりさくゆ
やもけうりとゞやそれでいらんまんがなりま
ゝきいまけ〜ひらに

絵師 鳥居清信 仕書

ひめはあまりのかふり
さにふ紀母のはかまゆり
してわゞ才のやりん
かこちとはやきよにかひふ
紀いのちまれば
むかとりて〜さべと打
ゆてそあけさる

ふむとん
しやうぎ
ふとあみ

のつかとまゆ
ゆ〜て
くぶされ

せつにこせ
ふれば
ふれば
とゝまこ
せつかん
すまそ
あきまし

大和繪師 鳥居清信 畫

父とつれのことばをきくとしてひめをとりかこみ名れば
にもあらぬれがやどきたちのきーが

やっちゃ
してこい
どんぐう
もさい
じゃ

こちらへ
とうぞくに
をかふんぎ
する

一のふこゝろ
おそろしや
いのこぼりけたすけて
えべ

鳥居清満画

白紙又は赤紙の
画外歌黄表紙
かけ[illegible]地を製す
青本
号を
青女と云

絵師の名をきりし
のおこりはぢり出さ
して上中下のうか
図 ちふく
ゆきふりに
名をしるす

鳥居清重清重
富川吟雪
富川房信
図 田中益信
江戸絵とりまして
清重にけやる

奥村政信の
絵石川豊信
図 はやる
田中元豊信さ
さうしの画作
あらはす

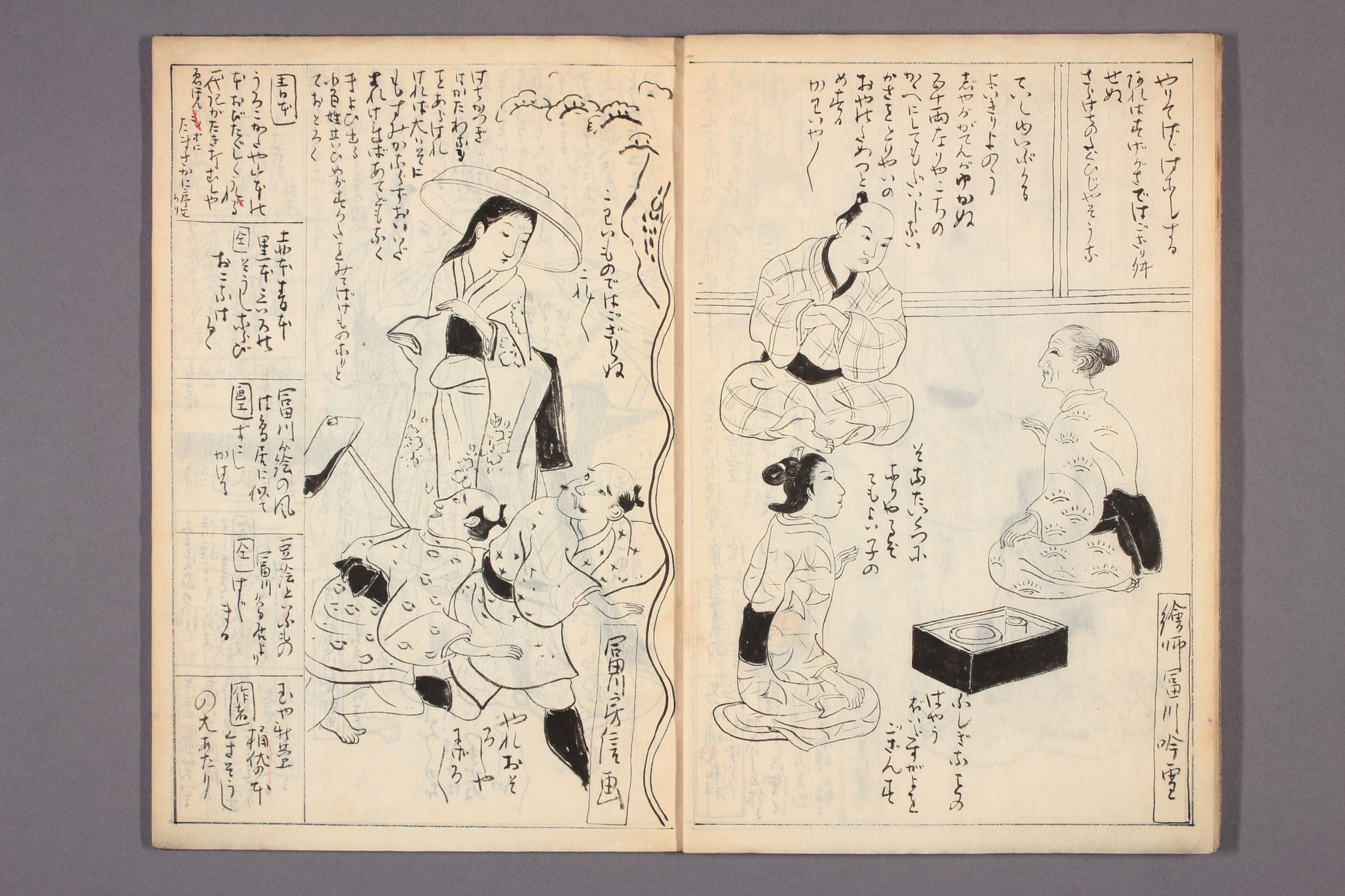
文子通称和祥
丸阿もつぱら
双紙を作る
図 さうしの絵に
作者の名をも
すこし和祥が始る

はちかつぎひめこのはの
やうすをゆんる

えはてーがい
もちがいざ
ぶめはやく五十両かーて
ゑだされちとやうすが
あるゑかさをきてい
すすす
はてさてどこかーもてんや
てんやふことはいわせすす
すい

ありく
さいでござ
りすす

鳥居清重筆


やりてばけもしする
ゐれはまげぎではござり件
せめ
さふけものさびじやそうな
てしぬいぶろる
よいきりよのう
おやがかてんがゆかぬ
五十両なりやこちの
かくへにしてもぶいとふい
かさをとりやいの
おやはくあつと
めちる
かるいやく
そあたらつふ
ちりやるぞ
こもふい子の
ふしぎふしの
はやう
おいぶすがよを
ごぎんそ
繪師 冨川吟雪
ことしものではござりぬ
これく
はさかつぎ
はかたわふ
をあぶけれ
ければ大いそに
もすみかふぐずおいぐ
まれけはぼあてどもふく
手よひもる
小百姓共ひめがもらさをみてばけものふりと
ておとろく
冨川家信画
やれおそ
ろや
まろ
うろこかやしなせ
なおびたぐしくろる
天化がたきすむとや
ろはん
たすけかに序定
土地名物
里名こいろせ
全 そうしふぶ
おこふけ
冨川が絵の風
は多屋に似て
恵 すこ
かはる
豆絵とふもの
冨川多屋より
全 けぐ
まる
ゑや牡丹
相伝の中
作者 ふさそう
の丸あたり

赤本はせつたゆる

青本をしんぱんとして
黒本は古版と称す

姫はあてどもなしにさまよい名がとある夜しばにいたりて何とぞそう船へのせて下されとこのくければ せん吹ぶくせんぞうのり合の人々あわしきすがたをせてふねへのせることかふけすそろをぶーかてこぎ出すかてるぶへいせんの百姓とも大せいひーめそわるきひめをとりすきてすでにあやいくしへたるぶへは戸のしはとしへたる二人つれの。

青本まきしきすりのけだをはりて

全 うろがたやとりけーめそ
まん板

多屋
清満
同 清經
同 清長
同 山尾重政
何も同ト絵風にてかしつこのかりを

多屋家の風
清經よりもじめて
清長をにうつる
全 こころの書れ又
句にやあるとしれ
ばすべかる

キミニ通笑ア
忘れ事町流の
作者 画を書出
して是より
当せに見する
うつる

ふたの上い
古風の北尾政演画
さてかの男かとつれ立ちて江戸へとのぼりさたりしにしんせつと思ひの外たかあるき北大の山師ぶれ
友ぐちとそうぐんのうちん
でもよ紀州ねもうけふりとそ
姫にゝるゝのげいをちーて
西面へうせとあれぐらて
さておめぐりにいかへて
なるいろん下りの太夫ぢいよ
うぢんのぼち娘にぞり舟
ゝゝれより
ぐいとうれ
ゝかり
ぢる
再彼乃国より
さあ今ぶ
やんの
まいぶ
やうぢんの
ぼれれ
ぶゝや
見ぬの人は
古風の春朝画
テンカラ〳〵〳〵ハリトラ〳〵〳〵
さて〳〵ぢつぢかぶりぢは
ぢりぢち
ぶるがよ
えちのぶん
しもせんら
ぢるがむ
そ
こや
ぶれぶが
ぶかりあん
ちゃ
イヤくぢるとかゝり
ヤンヤ〳〵〳〵
いぢれもまるのが
えんがとよりじゃ
おとんのよりけご
もちもは
そうぶ
姫
しおき
新下り
仕詰彩の
風俗画
札かえ
詳彩く
張
仕セ文
ぢゝそうしぶく
しやれることを主
とする
青本
南世風物
ぢゝの本ちじま
系表紙にこまかき
外紙の袋
入として
土古本とは
別板と
せこ屋と云出る
キこ云はしれぢとを
作者
てをつくり
面白丈人
の常にすること学
ことの宜まの妙と
柳文調やぢ
ぢがたのえ狂
国芳
勝川春章
づらてまぢれ画
をかく
鈴木春信
湖竜斎北絵の
全一枚画一流く
けーふかし北絵
なはやる

はちのき姫をみせるものにぶたれて面目もなやうげん
もくさまざまとこゝろ面けの
えんをしれば礼ではいらぬと
はさびけきいてさいさせんまとも
なしへとうとうへんじゃ
しておし出しうふえど
けえんぐ大ひやうげん
にてけちかつきぶ
うろけーとうわれや
もあぐうかく
しあにあるおきやくたぜい
きてつんせもの、えんは
まうえくもうけ

中古の清長画

はこうはかい
むかそう
ぶろふせ
ろうもち
もしろかー
まぐ
えんぐ
をね

中古の北尾重政画

ちあ
けちが
ふれる
あるき
いまぐにや
きつきて
もふやしゃう

忍川すき町画

むし
すり

漆戸物
焼清水

あるとまんまくまる
まやくたせにてさう
ぶんまつけけは何と
してあしまものけち
をとってやりくい
ものとそいうるとと
けれどもけふれば
ゆへはけけやりの
せともものやまろき
にしこんでとりや
もあろうかと大
せいにてともぶち
にやまろぎや
つれまきり
たのしけ

やきつぎの
ぐさまざそ
やきもちが
上そ
ぶろう

せともものやきつぎ
ふうできるぶけて
をとってけさまあ
やきつぎ
とそもできぬへ

中古の清長画

いつれも時代
のつくりなり

北尾勝川のうまを
絵けやう
画工 春章を
倍こ者し
つぎと云ふ

三の川豊春
うきを絵こ名を
全 ちあ清長
廿絵を一ぱうを
書出す清長風と云

流行の画工
おのく画の
画 うきかく
をを
にうける

芝全交最中
天象亭きそう
作者 忍川春町
画作
天象亭全交おもと
をかも工作

三馬

春喬

やさつぎのしゃれ
にもけちかつぎ
はりいいられをと
ことはりけにそ
もけや

国

山

けちのまは田の
ちゃってけしやをて
けいこぶよを出
てだやるかり
まそもぶしはが
あるこまのかつこうけるる
けれどまりやうはうつしきうまれも
りにろ人多く姫もまんさまでもまければ
おもしろくうきをはしとぶしをり

きれの春喬画

でえ
ざってえんね

そしてやるのはおんな
まへさせるのをおん
にしてかん

おゝあ
おめへに
もつて
やりてん

国うゝく府名画

春本大あさりを
貸人にはをす
青本 表紙の自
りをつけぬと
おこる

青本好つゝて
似られ絵を書き
国 信に元をい
つぶと称す
但し
やしや角力之

菊憲奈通
すゝひ絵のもが〻碧
全 ちの朗口断
この〻ろれさう
は重改ほ書改美
政信 ちの町人

改ゝ改のぶ
絵のもぶ一へん
全 る勝りち
黄角力の
似ち絵をかく

通矢金文
きこの乃象之和
作者 ちの杜芳
ぶれ大角りある

はちかつぎのけいこしよ大
きにひやうぼんよくいつく
こゝふでも女子のけいこ
ふはけこをつけとりに
るこがいはけり
化ん中のたはきこの
あるがは姫もしのあ
をつけとるもの大せいあり
日ごに人こむのぶつきれんてんゝて
本札の心もちたてる
中もこうとあ
町人のむすと一
人住のつれゝに
恋さみちぶれけい
こにきたりしぶけちかつぎ
が心は
中吉群馬耳改
の春朗画
やさ
き

菊とく丸
ちゝ童画

図に心うこかすれば
姫もさもぶに
まんぎりでも
ふくさそう
ちあ
にしき木の
ちんぞう
ちくこつそう
さうむくの
しがひに
ちんしなま
まで
うこそやき
わけんり

中古の後
改正画
中古の後
改正吉本作
中古の改正画
中古の改正画
中古の改正画

書女の趣向はぶ
はぐ こうまんにおる
書年 ふる人の
あとを書
女にすること
けやる

絵のかきうる又
ちをにうる
画工 北尾勝川
おの名高レ

こう廻りの時の
女絵をあらた
画工 北尾狩流の
一派をしゐる

豊国やくしゃ
丹の名に名高
全 こう廻りのに
北斎のもりあ世に
おこふはず

いづれ
めでたく
作者 八十枳
歳

世のいけんも馬のこくに
風ちれをふるおやも今
はせんちをそあぐこいる
あへちるじけんの男まか
りをていぶやう見をにより
はりどりまづあにあ
大せいをうつくしく作りそ
ちぶべおきそあ中へ
はちろ紀をよびむし
よのまりやをくりべを
ちくまうべ
はちあ定ばさぐまるば
はちろまもはちを
思ちるおの水より身を

中さのちろ麻呂筆

ひこをうぐひふしと
いれをもおもつと
も同じんり
又はちかつきハ
きよりやうくべの
うけきをまく
よりてぶ身のか
ちとのとふれを
よあくべのさ
きへ出てはいとけば
やしいちまん人と
はぢをあへるにのと
はれをいづくへちりと
身をまのびやうにむ
をこにくりきかせ
しぐいにちどりの
あみぐせをあへを
を放もあけんれを
ちくしこまんと
するおりくふしまや
くさきたるはちおち
てやよりうづくのたらぶ
しせんと出ればえいまろ

はちがかけ
くぶ多く
かぐ
あをちくさ
こしかを
はつしせる

春朝改康彦宗理
又改 北斎辰政画
これ三十六体

ムらぎりち
あくしべの宝ロをそ
こちろとそ

當世部

かとも しふぼ あとぶべ
の宝ものとちりれれぢ
あくよめ大せいこてを
けれときかさりておー
ろ四べりたりあおーこてー

あまりつけ
折りけさばきに
けつまづきやー大さわぎ
にて今やおそしーとちやに
らまへ名
もしはちかつき出こんば
一どにぞつと

子興改

豊国

長れさ茶画

豊国画

むこ大せい
はちをいこうかせて
いつれし
やもぎん
これみてれ
で有る

豊国画

二八をすこし
ともあいきよう
いろあるふそで
ちづくーと社につ
けばちをみるあおと
あにはあもおのがてもり
のぞく
はちづきにつつぱい
まつつく大せいがあ
きれてことばもふり
けり

えんとそうぞ
又うつくしいの
えんぐちぢー
しろう
れもんのしまで
しわて
ゐるえ

豊国画

さてもはちうきがみの
よきをうるをうらやましくあや
初め大きにしろこびさろそく
えれいもちゆひよくそのひ
ふうふむつまじく
くらしけり
そこに又はちかつきが
まけのよろこび
まとりむをも
をおいむし
るむくひにて
しこちまちめくりて
わくりともこつびき
とふりまぶりやり
そのはをおくり名
或時ひめゆふ大せいの
ともをつれかのをきさり
しけるがまんぐしくる
くえんぜもんへもうで
名がかの門ぜんて
ゆしまやうぐりあひ

中古のち麦芸画
流書本体

どうやらむそやとにてゐるやうなる人

はるがひめは一と自みるより
ゆがちうへとハ思へども
まくのけふいをはぐかりてせ記
名ぶみをちぐ〜おあ
ずあ一先見ぶやへかり名とこ
ろとかくしておつとにもかく
とつけちぶせ名れで千後
こつじきをとりあげて
一生あんらくにをこし名
これおやのあるをもつて
ぢんにかうむるとやいつべし
ひとえに
大慈大悲の妙効力
ちゑ
りでらくゆへ
名り

中古北尾紅翠画

はぎ書ハちかつきのをゑをかりて
ちゑ名ゑ斗下の文法に
こぶ依之者叶のきをとは
ロ調大ちかひあり去べて
ゆ五下の洲八一流の
ゑちをまねて
まちや通
のおふぐ
さみに
備へる
ふり
名ゑを
ゆ取る
と思ひ
ゆた
おの〜
ゆ
のせと元を
うがちるに
あらぬ絵の
かゑちを訓せ
るのしにして近く
たとハ役者のゆ戸色
を使ふがごし

右全部十五ふ画立語名及
武亭三馬模画寫

作者名寄拾遺

恵川町
隠士皇逝女
門人若松勇載門
畑芋輔
千差万別
壁前真十九年材
竹塚東子
南陀伽紫蘭
当時休の同屋 宝屋喜追加
▲中古美自画作とする人の名
田中益信
恵川春町
▲中古美自筆見作の人
觀水堂丈阿

画工名彙

元い来さそう
板下を休の部

烏居清長　勝川九徳　無春英
喜多川哥麿　北斎辰政
北尾政演　蔦恵斎政美
▲唐来三和　迴文の外題を作る　きるの根ふ　金のふ木
▲むかしより土月本の田を加まる名
奥村　鈴木春信　石川豊信　文調
湖竜斎　勝川春章　春好　春朝
春林　春山　春窪　春亭　勝川門人あるを
哥川豊春　けれども多くし追加すべし
▲名人戯作者　六家撰
キ三二
恵川春町
万象亭
サニ全仁又

三馬自画作

全こ笑生ゑ泥ゑのゆめ
かうえんまあんまや日記
さんぶくつむぐさきそめが
けるるみねこうえんあとと
おやのかるた　うてやけらづみ
こまめきもぐ記　文武二道
あうむぐ〜　えんぶひいきのゑそう〜
まろえんぶひいきのゑそう〜
三舟壇　うろこのけ〜さり〜
かね入七人けしやう
もえふ後日はふ〜
こうそしつかり雁とり帳
こうそ八百万八でん
ふがうまれ記
文武二道　万石どを〜
大ちがひ〜かぶね
女郎の誠と玉子の角文字
けふのしたふがものがたり
木太郎大悲の千錦本
おがみんすにまさん
十七けいせいけふの内
そんふいふいき
きるふの根ふ金のふこ木
七外大角りあげてらそぐ〜

恵川春町大あり
全
全
全・キ三二
全・キ三二
全
全
全
キ三二大あり
全
全
全・馬琵人
全・本太郎
全
全
芝全交ある
全
全
全
全
万象亭あり
唐来三和あり
別て万象亭英
部八大全にかづる